

奥日光スノーシューハイク山行報告

【山行日】2023年 2月 12(日) 快晴
【集 合】栃木市運動公園P AM 7:00
【費 用】マイカー1台 : 2,100円
【メンバー】CL:鈴木ユ、 SL廣瀬、
石澤、小林、嶋田、鈴木ナ、並木、福島、藤原ト
【コースタイム】栃木市運動公園P7:00=湯元温泉
P8:30/9:00~~蓼ノ湖 9:30~小峠 9:50/10:00~
刈込湖 10:45/11:30~小峠 12:00~蓼ノ湖 12:20
~金精道路 12:40~湯元温泉 P13:00/13:15=
大谷 PA14:00/14:10=栃木市運動公園 P14:30



恒例の奥日光スノーシューハイク、今年は湯元温泉から刈込湖を計画した。参加者9名が2台の車に分乗し、栃木市運動公園を7時に出発し湯元温泉に向かった。東北道から日光宇都宮道路を走り、イロハ坂を通過して湯元温泉の駐車場に着く。出発の準備を整えトイレを済ませ、ストレッチを行って出発する。湯元温泉街を抜けて、湯元温泉の源泉地を通り刈込湖登山口でスノーシューを付



ける。初めてスノーシューを体験する人がいるので、スノーシューの付け方や歩き方を教えて出発する。今年は10年に一度の大寒波のお蔭で積雪が多く、登山道の雪が繋がっていた。

急坂を九十九折れに登ると雪に埋もれた金精道路に出て、ここから窪地に向かって急坂を下って行く。ここからの道は夏道と違い、冬季限定のスノーシューコースを進む。雪の谷間を抜けて樹林帯の中を登り返し、再び下ると蓼ノ湖と言う小さな湖畔に降り立つ。湖畔の西側を回り込むよう

に進み、北側の平坦な場所で休憩を取り衣服調整を行う。ここからはミズナラなどの広葉樹の森を歩き、明るく緩やかな斜面を登って行く。

やがて傾斜が増し沢状の道となり、沢沿いの急斜面を登るようになる。本日のコース一番の難所で、頑張って登りつめると平坦で明るく開けた小峠に着く。小休止して息を整え、リンゴや菓子を食べてエネルギーを補給する。穏やかな冬晴れに恵まれ、初めての人たちもとても楽しいと笑顔で喜んでいた。ここから北に向かって下り、盆地状の平坦な場所に出て東に大きく向きを変えて進む。真白な雪と真っ青な空のコントラストが美しく、スノーシューが楽しく感じられる場所である。



やがて両側から山が迫った谷間を抜け、前方が開けてくると刈込湖は近い。

樹林の中の小さな丘を越えると、目の前に結氷した刈込湖が白く広がっていた。周囲を山に囲まれて



て静かにたたずむ湖は神秘的で、ここまで歩いて来た疲れが一瞬にして晴らされる。天気が良いので湖畔を一周しようと思ったが、トレースが無いので皆さんに「ラッセルしてでも行きたい人」と聞くと、誰も返事が無かった。我輩も疲れているのでラッセルする元気は無く、北に向かって行ける所まで歩いて行くと野生のサルが戯れていた。

湖畔の景色を楽しんだら来た道に戻り、いつもの木の根元でランチタイムにする。お湯を沸かしてカップ麺やみそ汁を作り、おにぎりやパンをいただ

いた。K 澤さん手作りのチャーシューや唐揚げ等も出て、雪景色を見ながら美味しくいただいた。

ランチが済んだら往路に戻り、下山開始する。小峠まではアップダウンが少なく軽快に歩き、小休止して小峠からの急な下りに備えて足を休める。

急坂の下りは難しく皆さん苦勞して下り、何名か途中で転倒していた。ツアー客と思われる団体が登って来て途中で待たされたが、皆さん無事に急坂を下り切り蓼ノ湖畔で休憩する。ここからも樹林帯の登りが続き、最後の急坂を登って金精道路に出る。道路から九十九折れの道を下り、登山口でスノーシューを外して駐車場に戻った。駐車場に戻ると満車で、入口の脇まで車が止められていた。



靴を履き替えトイレを済ませたら車に乗り帰路につく。

冬晴れの穏やかな日和に恵まれ、雪山の大自然を満喫でき楽しいスノーシューハイクとなった。